

「島スクエア」商品開発起業コース3年目の方針と実施状況

岡野内悟* , 山本信夫** , 森脇千春*** , 堀 義則****

A Policy and the Enforcement Situation of the Third Year of Shima-square's Business Course in Product Development

Satoru OKANOUCI, Nobuo YAMAMOTO, Chiharu MORIWAKI, Yoshinori HORI

Abstract

Shima-square's business course in product development is a course to study the product development approach utilizing local resources of Suo-Oshima town with local motivated people. In this paper we report a policy and the enforcement situation of the third year of this business course in product development on the basis of reflection for the 2-year activity in the past.

Key words: local reactivation, business course, product development, Shima-square, Suo-Oshima town

1. はじめに

「島スクエア」とは平成20年度文部科学省科学技術振興調整費地域再生人材創出拠点の形成に対し「山海空コラボレーションみかん島再生クル」と題して大島商船高等専門学校（以下、本校）から申請して採択された地域再生人材育成のプロジェクトにつけられた愛称である^{[1]-[3]}。このプロジェクトは、小規模であっても地元で起業できる人材や新しい事業展開を目指す事業者を養成することで地域再生に結びつけようという試みである。その根拠として、次のように考えている。

・UJ1 ターンにより地元で起業することで、地域の人口が増える。

・農業や漁業など自営業者の収入が増えると、気持ちや生活に余裕ができる。

・起業にも関心を持つ意欲の高い人が増え、地域に活力が生まれる。

・それぞれの特技を生かして多様なサービスが地元生まれ、住民の生活の質が向上する。

・起業を通して厳しさや責任を持つ人が増え、補助金などへの依存体質からの脱却につながるなど。

この取り組みは周防大島町との連携事業であり、商工会、観光協会などの地元団体や起業家、NPO法人と連携して行っている。本校では起業家を養成する4つの講座「起業家養成基礎コース」、「商品開発起業コース」、「体験型観光起業コース」、「Web・動画クリエイター養成コース」を行っている。

中でも商品開発起業コースは地元の地域資源を活用した商品や道具を開発し、起業や新たな事業展開に結びつける人材の養成を目的とした講座で、将来的には電子、機械、エネルギー関連など本校の工学技術が地域に生かせるものと考えている。

商品開発起業コースはプロジェクト2年目の平成21年度から開講し、今年で3年目となる。1年目は7組（10名）、2年目は8組（9名）が修了し^[4]、その内の4組（6名）が実際に商品の販売を行っている。また、3年目となる今年度は、11組（13名）が受講し、9組（11名）が修了予定である。本論文では、過去2年間の商品開発起業コースの問題点と今後取り組むべき課題を踏まえ、3年目となる平成23年度の方針と実施状況について報告し、今後の展望について述べる。

2. 方針

商品開発起業コースの実施に際し、どのような商品を対象に、どのような受講生に、どのような方法で、どの期間に、どの程度まで身につけてもらうかなど、定例会で検討し、方針を決めてきた。重要な点をまとめると次の5つに整理できる。

- 商品開発起業コースの目的
- 実施時期と講師
- カリキュラムと修了要件
- 受講生の募集
- 修了後の取り組み

2.1 商品開発起業コースの目的

「島スクエア」のパンフレットに記載した商品開発起業コースの説明は、図1のとおりである。

ここで問題点として指摘されたことは、農・漁産品の加工品に商品を絞るのか、周防大島の地域資源に限られるのか、ヒット商品が実際に生まれるのかなどである。開講して1年目は、ある程度ニーズのある「お弁当」と農業に関係の深い「農機具」を開発商品のテーマにして実施した。しかし、テーマを絞ると広く人材を集められないのではないかとのことから、試みとして2年目は開発商品テーマを設けず、受講生それぞれが開発商品を決めて自分で取り組む形で募集した。すなわち、商品を絞って少数精鋭の形でヒット商品を狙うのではなく、小規模であっても商品を作ろうという意欲やアイデアを生かし、多様な商品の芽を育てようという考え方である。当初はスタッフで対応できないものが提案された場合の対応を懸念したが、講座の進行とともに、食品系とものづくり系のスタッフがいれば、ある程度対応できると考えるようになった。また、講義の商品試作・評価の際に受講生が集まっていっしょに作業し、意見交換する時間が持てたことが講師や受講生に好評であった。そこで今年度の方針も、特に商品テーマは設けず、2年目と同様な形で商品化の方法について学び、講師・スタッフ、受講生、戦略委員みんなでアイデアを出し合いながら各自が良い商品に仕上げていくことを目的とする。

応用 商品開発起業コース



周防大島の豊かな資源を活用した商品を開発することを目的とした講座です。実際の商品開発の流れに沿った実習を通じて、商品の企画、デザイン、製造、販売についての基礎を学びます。

【対象】周防大島の資源を活用した商品(農・漁産品・加工品その他)の開発及び販売を実現したい方。

【将来像】周防大島の地域資源を活用した新商品の開発を実現し、ヒット商品を生み出すことを目指します。

図1 パンフレットでの説明

2.2 実施時期と講師

商品開発起業コース1年目は、10月から翌年2月までの土曜13:30から16:00を基本に13回の講座として実施した。この時期はみかんの収穫時期と重なることや飲食店では土曜に仕事があるなど受講生が出にくいとの指摘があった。そこで、2年目は仕事を持たれている方も参加しやすい6月

から9月までの木曜19:00から21:30とし、全13回の講座で実施した。13回の講義で内容的に足りるのかとの意見もあったが、講座を長く続けるより必要最小限の内容で短期間にまとめ、10月以降に実習などで完成度をあげる方が効果的ではないかと判断した。今年度も同様の実施時期とする。

また、1年目の講師は2名の特命教授と3名の外部講師に担当していただいた。残念ながら本校教員は工業系以外の商品開発は専門でないため、一般的な商品開発の手法や周防大島の地域資源についての講義を特命教授に、「お弁当」の試作評価を食品関係の商品開発に詳しいフードコーディネータに、商品化の際に必要なパッケージデザインやネーミングを広告・販売の専門家に外部講師として担当していただいた。「農機具」は本校教員が担当した。今年度も同様に、ものづくり関係や産業財産権、発表資料の作成以外は、特命教授1名、外部講師4名で実施する。

2.3 カリキュラムと修了要件

今年度の商品開発起業コースのカリキュラムを表1に示す。

表1 商品開発起業コースカリキュラム

平成23年度 商品開発起業コース(通称:山コース)

～商品開発の流れを身につけよう～

(スタッフ)		講義時間		
岡野内悟、堀義則 山本信夫、森脇千春		木曜 19:00-21:30		
講座名	講義内容	講師	場所	
6月2日	商品開発概論 商品開発の流れ(事例) 考えるべきポイント	山本信夫	大島商船高等 専攻科講義室	
6月9日	市場・環境分析 現状分析(一般ニーズと地域資源) 商品企画のための絞込み	山本信夫	大島商船高等 専攻科講義室	
6月16日	産業財産権 特許・商標など産業財産権について IPDLによる実習	高橋主人	大島商船高等 専攻科講義室	
6月23日	商品企画 商品企画書の作成	山本信夫	大島商船高等 専攻科講義室	
(必要により実習・補講・特別講義)				
7月7日	商品設計・試作・ 評価1 設計・試作品を持って来て、評価、改良 点を検討 (しまとびあスカイセンターで試作できます)	近藤直子 穴見信二	大島商船高等 専攻科講義室	
7月14日	商品設計・試作・ 評価2 設計・試作品を持って来て、評価、改良 点を検討 (しまとびあスカイセンターで試作できます)	近藤直子	大島商船高等 専攻科講義室	
7月28日	商品マーケティング1 商品のネーミング、キャッチフレーズ コンセプトに合ったパッケージおよびラッ ピング	穴見信二	大島商船高等 専攻科講義室	
8月11日	商品マーケティング2 効果的な宣伝・広告 パッケージデザイン	近藤直子 穴見信二	大島商船高等 専攻科講義室	
(必要により実習・補講・特別講義)				
9月1日	商品試作・評価 3 試作品を持って来てパッケージやネーミ ングなど販売方法を含めて評価。検討し て商品として仕上げる	近藤直子 穴見信二	大島商船高等 専攻科講義室	
9月8日	販売・量産準備 完成した商品の安定的な生産・販売に 向け、効果的な販売方法と流通、材料 調達と在庫管理	中野幸浩 近藤直子	大島商船高等 専攻科講義室	
9月15日	まとめ・発表準備 まとめ・発表準備(PPT作成含む)	穴見信二 永松朗	大島商船高等 専攻科講義室	
9月22日	商品試作・評価 4 試作品を持って来てパッケージやネーミ ングなど販売方法を含めて評価。検討し て商品として仕上げる	近藤直子 穴見信二	しまとびあスカ イセンター	
9月29日	修了発表 開発した商品について口頭で発表	戦略委員 ほか	大島商船高等 視聴覚室	
(必要により実習・補講・特別講義)				

このカリキュラムは、今年度のものから「商品試作・評価4」、「まとめ・発表準備」の日程を都合で変更している。

また、本講座の修了要件は、次の2つである。

- ・11回以上の出席
(ただし、講義DVDのレポート4回まで出席扱い)
- ・修了発表・資料提出

この修了要件は、「島スクエア」他3コースと出席率80%以上ということで統一している。

2.4 受講生の募集

平成23年度を受講生の募集は、「島スクエア」4講座が5月から順次開講されることから、全講座の受講生募集を一括し、周防大島町と近隣の柳井市、岩国市、平生町、田布施町へ広く案内する。

(1)パンフレットの配布

配布したパンフレットの表紙を図2に示す。

このパンフレットと「島スクエア」会報を配布してもらうよう各所を回り^[5]、PRを行う。

(2)広報への掲載

平成23年度を受講生募集と説明会への案内を、周防大島町と近隣市町の広報への掲載を依頼し、関心のある人を募る。

(3)受講説明会の開催

4月23日(土)13:30から14:30、4月26日(火)と28日(木)の19:00から20:00に受講生募集の説明会を本校で開催した。参加者は合計41名で、昨年をやや上回った。説明会では配布資料として、パンフレット、会報、全コースのカリキュラム、受講志願書と受講規則を配布した。受講志願書は図3、受講規則は図4のとおりである。



図2 パンフレット

島スクエア		平成23年 月 日
<p>平成23年度 受講志願書 「山海空コラボレーションみかん島再生グループ(島スクエア)」 大島商船高等専門学校校長 殿 平成23年度 下記コースの受講を希望します。なお、受講生となった時は受講規則を遵守致します。</p> <p><input type="checkbox"/> 起業家養成基礎コース(島コース) <input type="checkbox"/> 体験型観光起業コース(海コース) <input type="checkbox"/> 商品開発起業コース(山コース) <input type="checkbox"/> Web・動画クリエイター養成コース(空コース) (希望コースに☑をお願ひします。)</p>		
(ふりがな)		印
氏名 年齢・性別 (必ずご記入下さい)		才 男・女
住所 (必ずご記入下さい)	郵便番号	
電話番号 (急ぎの連絡で使用、 どちらかは必ず ご記入下さい)	自宅:	
	携帯:	
メールアドレス (電子メールでの連絡 を希望される方)	PC:	
	携帯:	
志望動機 (受講意欲確認のため 必ずご記入下さい)		
面接希望日 (希望コースの希望日に ☑をして下さい。 コース担当が連絡して 時間を調整します)	(空コース) 4/27水 5/11水 (山コース) 5/12木 5/19木 (海コース) 5/21土 5/27金 (島コース) 5/31火 6/7火 6/14火 平日は18:00から 土は13:30から の時間帯を想定しています。 上記に該当ない場合の希望日時→	
以下は、支障のない範囲で、お答え下さい。		
事業タイトル (事業名称)		
事業の目的や 事業の概要		

個人情報は個人情報保護法に基づき安全、適切に管理・運用致します。また、安全に管理するとともに個人情報漏洩の防止、改ざん、漏えいなどを防止するため、必要かつ適正な情報セキュリティ対策を行います。

図3 受講志願書

平成23年4月23日

「島スクエア」受講上のお願ひ

独立行政法人 科学技術振興機構(JST) 科学技術戦略推進費補助事業の地域再生人材創出拠点の形成「山海空コラボレーションみかん島再生グループ」における受講規則

独立行政法人 国立高等専門学校機構
大島商船高等専門学校

- ①校内外での喫煙は、指定された場所でお願ひします。
- ②機器等を使用する際は、講義担当者の許可を得てください。
- ③本講座と関係のない施設の出入りは、ご遠慮ください。
- ④本人の不注意による事故は、賠償の責任を負いません。
- ⑤ホームページへの掲載や広報、報告会や報告書作成等に使用するため、通常の講義の様子などを写真撮影やビデオ録画させていただきますのでご理解ください。撮影した写真の掲載など、一般的なものにつきましては無断で使わせていただくことがありますので、ご了承ください。
- ⑥同様に、講義で提出していただいた資料を広報、報告会や報告書作成等の目的で無断で使わせていただくことがあります。ご了承ください。
- ⑦本講座に参加する者は一般に公開されるまで、受講生の事業プランや商品アイデア等に関して秘密保持をする義務(守秘義務)を負うことになります。
- ⑧講義の中で生まれた知的財産については、受講生と教職員が発明者となります。

知的財産権の帰属方法について

講義内で発案された知的財産権(特許・商標等)につきましては、以下のいずれかの扱いになります。

a:発明者は機構に権利を譲渡し、機構が出願する。その際は出願前に、権利化後の利益配分について発明者(受講生と教職員)で決めておく。

b:機構が出願しない場合は、発明者(受講生と教職員)で調整する。

※機構とは独立行政法人国立高等専門学校機構のことで、大島商船高等専門学校の上位組織です。

図4 受講規則

受講志願書には、面接希望日を記入してもらい、後日、時間調整して 15 分程度の面接を行い、受講生を決める。商品開発起業コースの定員はスタッフが対応できる 8 名程度と考えているが、できるだけ希望に添えるよう、多めに取るように心がけている。

(4)「島スクエア」ホームページへの掲載

説明会への案内や申し込み方法は、「島スクエア」ホームページに掲載し、説明会資料のカリキュラム、受講志願書、受講規則を pdf ファイルとしてダウンロードできるようにしている。

2.5 修了後の取り組み

現在、15 組（今年度は 9 組を予定）の修了生を出しているが、実際に販売できる商品に結びついているのは 3 分の 1 程度である。そのため、修了後の支援が必要と考え、昨年はメールによるニュースレターでの情報提供とものづくり技術についての特別講義を実施した^[6]。しかし、修了生と直接出あうことが重要と考え、これまでの修了生、講師、戦略委員が集まって実習しながら商品の完成度を上げるための特別講座を行うことを考えている。また、起業に向けてのテスト販売が行える場を設けることも検討している。

3. 講義の実施状況

現在、講義は方針に従い、ほぼ予定どおり進行中である。受講生 13 名で始めたが、1 名は体験型観光起業コースとの受講で時間的に難しくなった、1 名は仕事が変わり受講が難しくなったとの理由で、11 人（9 組）が修了予定である。また、毎回の講義準備は、定例会で打ち合わせをし、講義資料作成、講義室の機材準備などを行う。講義記録として DVD 作成、ホームページへの掲載を行う。

講義の場所は、通常は本校の専攻科講義室、調理実習をとまなう場合は周防大島町のしまとぴあスカイセンターなど、必要に応じて適当な場所で行う。図 5 は講義の様子である。



図 5 講義の様子

4. おわりに

「島スクエア」の商品開発起業コースに携わって印象的なことは、商品開発には技術や性能とは違った視点が重要であること、周防大島は地域資源に恵まれ、意欲的な人が想像以上に多いこと、個人の技量だけでなく人とのつながりが大切であることなどである^[7]。現在、商業高校では商品開発を授業に取り入れ、実際に開発商品を販売している例も少なくない。本校には、地域協力センターや技術支援センター、情報教育センター、地域連携交流会などがあり、地域への技術教育や研究協力を行う体制はできている。これを生かすためにも、教職員、学生、地域の有志が商品化したいものを持ち寄り、一緒にアイデアを出し合いながら商品開発、教育研究を行う場ができれば良いと考えている。「島スクエア」の講座は、それに結びつくものと期待している。

一方、現在の講座の実施方法では、外部講師などへの人件費が多く、そのまま維持するのは難しい。お金をかけずに人が集まって商品開発を行える場ができるよう、検討していく必要がある。

謝辞

本活動は、文部科学省科学技術振興調整費地域再生人材創出拠点の形成の補助事業として行った。記して、感謝の意を表する。

参考文献

- [1]島スクエアトップページ
<http://www.oshima-k.ac.jp/shima-sq/>
- [2]科学技術振興調整費/地域再生人材創出拠点の形成ホームページ
<http://www.jst.go.jp/shincho/chiiikilink.html>
- [3]北風裕教ほか:地域再生を目的とした産学官連携の活動報告,大島商船高等専門学校紀要,第 42 号,pp1-pp10,(2009)
- [4]大島商船高等専門学校:山海空コラボレーションみかん島再生クル (島スクエア) 2008~2009 年報,(2010)
- [5]大島商船高等専門学校:みらいへ架ける「島スクエア」会報誌 VOL.1(2011)
- [6]岡野内ほか:「島スクエア」3 年目の方針と実施状況,大島商船高等専門学校紀要第 43 号,pp.31-34 (2010)
- [7]岡野内ほか「島スクエア」の活動と地域貢献への一考察,平成 23 年度全国高専教育フォーラム教育研究活動発表概要集,pp.125-126(2011)